

The 25th Regular Concert



'82 1/30(土)

千葉市民会館大ホール

PM2:00 開演

千葉県立千葉工業高等学校吹奏楽部



皆様おいそがしいところ、私たち千葉工業高校吹奏楽部第
25回定期演奏会へ、ようこそいらっしゃいました。

うでによりをかけた味付で、音楽のフルコースを味わって
いただこうと思います。

スパイスきいたフォルテシモ、じっくり煮込んだハーモニ
ーは、どれもみなお客様をひきつけることうけ合いです。

これを機に、皆様に「通」になっていただきたいと思います。

デザートをお望みの方は、一言「アンコール」。とおさけ
び下さい。

では、とってもステキな演奏会を、たっぷりとお楽しみ下
さい。



G・ホルスト：組曲第2番

G・HOLST：Second Suite for Military Band

I. March.

II. Song without words "I'll Love my Love

III. Song of the Blacksmith.

IV. Fantasia on the Dargason.



M・Noman：「007」シリーズよりジェームス・ボンドのテーマ

E・Bernstein：荒野の七人

N・ROTA：「ロミオとジュリエット」より愛のテーマ

J・GOLDSMITH：スタートレック

C・MANGIONE：サンチェスの子供たち

S・WATANABE：オレンジ・エクスプレス

American Folk Song：茶色の小びん

J・TATGENORST：FRNT PAGE



D・ショスタコーヴィッチ

D・SHOSTAKOVICH

祝典序曲

FESTIVE OVERTURE

交響曲 第5番 作品47「革命」 第4楽章

SYMPHONY No5 Op 47 FINALE

PROGRAM NOTES

組曲第2番

G・ホルスト

ホルストが、ハンプシャー地方の民謡を素材として使い、ミタリーバンドのために特別に書いた作品で、4つの楽章からできています。

最初のマーチは、モリスダウンや"スワジー・タウン" "クラウディー・パンクス"などの民謡が使用されています。

2曲目は"I'll love my love (アイル・ラブ・マイ・ラブ)の旋律を基にした「無言歌」

3曲目は「鍛冶屋の歌」で後にその名前で、大変ポピュラーになった旋律。

終曲は「ダーガソンによる幻想」で、一般によく知られている「グリーン・スリーブス」の旋律が、組み込まれています。

「ジェームス・ボンド」のテーマ

M・Norman

「007」シリーズの中で、サスペンスフルな効果と、アクション・シーエンスに流されているのがこのテーマです。ジェームスボンドのシャープな感覚がモンティ・ノーマンの作曲したこの主題曲にも生かされて、雄爽とダイナミックに、行動力の後に秘められたロマンチズムが見事に表現されています。



「ロミオとジュリエット」より愛のテーマ

N・ROTA

オペラの演出家としても有名な、フランコ・ゼッフィレッリ監督によって映画化されたシェークスピアの悲劇「ロミオとジュリエット」に、豊かなBGMを作曲したのが、イタリアの作曲家ニーノ・ロータでした。彼は、この物語にピッタリ合った美しく、そして悲しみにあふれたすばらしい曲を作りました。

私たちのバンドは、こういう静かに旋律を歌うような曲は最も苦手で、どうしても「男ばかりのバンド」という感じが漂ってしまいます。



サンチェスの子供たち

C・マンジョーネ

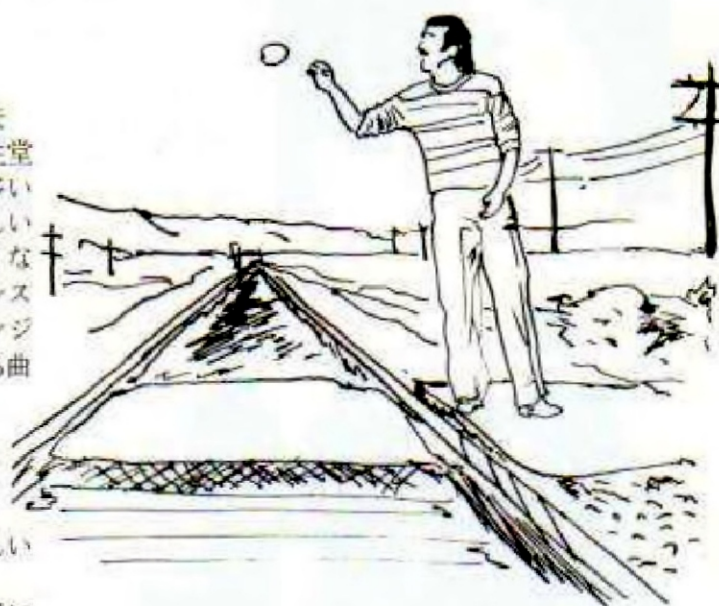
チャック・マンジョーネが初めて手がけた映画音楽で、彼はこの曲で2度目のグラミー賞を受賞しました。哀愁美にかざられた、ドラマティックな曲の展開が、みごとに再現されています。

TVのCM音楽としても流れているので、たぶんご存知の方も多勢いらっしゃると思います。

オレンジ・エクスプレス

渡辺 貞夫

この曲は渡辺貞夫の曲ですが、去年は、養生堂のCMですっかり有名になり、御存知の方も多いと思います。渡辺貞夫の曲はおぼえやすい美しいメロディをもったものが多くて、口ずさみたくなるほどですが、特にこのオレンジ・エクスプレスはシンプルで美しい旋律をもっており、オレンジの産地カリフォルニアの香りと軽やかさがある曲です。



茶色の小びん

この曲は、アメリカ民謡で軽いリズムと楽しい旋律で、多くの人々に親しまれてきました。

グレン・ミラー楽団が演奏して世界的に有名になった曲です。

D・ショスタコーヴィッチ

D・SHOSTAKOVICH

祝典序曲

この曲は、ボルガ＝ドン運河の完成を祝って、1954年作曲されたものです。

曲は、6分程の短いものですが、グリランカの「ルスランとリュドミーラ」や、カバレコスキーの「コラ・ブルニョン」の序曲と共通の、明るく喜ばしい祝祭の気分にあふれています。

まず壮大なファンファーレ（アレグレット）で曲は始まり、一転して「森の歌」第5楽章の主題による非常に速い行進曲（プレスト）に変わります。つづいて幅広くゆたかな第2主題が、ホルンとトランペットでひびきわたり、再び行進曲に戻って大きく盛り上がりてゆきます。その頂点で、10名の金管バンドが加わって、最初のファンファーレを最強奏で吹きならし再びプレストに変わって第2主題が顔をだし、そのまま高潮して華やかに曲は終わります。

交響曲第5番作品47「革命」

15の交響曲を残したショスタコーヴィッチが、わずか18歳のとき書き始めた交響曲第1番さえ今日なお、オーケストラのレパートリーにはいっていて傑作に数えられています。次に生まれた傑作が作曲者31歳のときに書かれた「交響曲第5番Op.47」です。この作品はソビエト連邦の革命20周年に当たる1937年に初演されたというところから、「革命」というニックネームで親しまれています。

第4楽章（フィナーレ）

「フィナーレ」は抑えがたいようなエネルギーの爆発である。まぎれもなくロシア的である。力強い行進曲が、ティンパニの活気あるアクセントに対抗して、金管楽器によって奏される。この楽想が迫力を増していきながら、ついに抑えようもない嵐をまき起こす。オーケストラのダイナミックスと楽器の色彩感、作曲者によって思う存分に開発されている。しかし、ぐっと静まってもっとゆるやかな中間部が、休息のひとときを与えてくれる。行進曲の音楽が戻ってきて、ますます迫力と壮大さをましてゆき、全曲をその勝ち誇ったような意気揚々たる解決へ運んでゆくのである。」



船橋吹奏楽団、中央大学オーケストラ、市川交響楽団、習志野フィルハーモニーを経て、1972年に新交響楽団入団。1974年より同楽団首席打楽器奏者。（新交響楽団は1978年のサントリー音楽賞を受け、毎年邦人作曲者の作品を取り上げる）。

1978年より千葉工業高校吹奏楽部の講師として生徒の指導にあたる。ストラビンスキー、マーラー、ブルックナーなどの大曲を得意とする。本校OB。

<FLUTE.OBOE>



オーボエを吹く井上光一くんは街を歩くだけで、お巡りさんに、つれて行かれてしまうという、おそろしい見かけではありますが、性格は、極めて狂暴で、とてもゆかいな人です。フルートを吹く大塚くんは、とても上手な「頭の痛くなる様な」だじゃれを言って、僕らを疲れさせてくれます。そして残る二人、伊藤さんと山本さんはいつも自分のことを「不幸だ」と思っている様です。井上くんは、いつの日かお空を飛ぶのですね。

まるで空を飛んでいる様なトーンを出す四人に、僕らの期待は集まっている様です。……なんつって。

<CLARINET>



我々の仲間うちで、一番のカタギであるこのパートは、雨ニモ敗ケズ風ニモ敗ケズ、雪ニモ、夏ノ暑サニモ敗ケズ、普段の練習以上に練習し、この日までやってきました。最近、みんなから病気を移されて、めっきりひょうきんになった相野君。就職先は火消しという鈴木君。最近、特に暗い成田君らを先輩に持った三人の男たちがいた。栗原、大橋、真藤、彼らは笑いじょうごである。クラのうなずきトリオとも言われ、今日もなぐられる。

本日の定演終了直後、5:00からの練習も予定されているとかいないとか。雨ニモ敗ケズ風ニモ……。

<SAX.FAGOTTO>



Saxのパートは、字のとうりイヤらしいパートです。このパートは、三年生のW君、二年のU君、一年のH君で構成されています。W君はぶりっ子であり、けむたい存在です。U君は、もの静かですが、TSAXを吹くとピカイチです。H君は、ファゴットのO君といいコンビになっていて練習熱心です？エヘラエヘラ。ファゴット吹きO君は、年中奇技なコスチュームで我々の目を楽しませやかましい存在です。しかし彼のファゴットの音色は、我々を陶醉させてくれます。彼ら4人の演奏をお聞けください。

<Horn, Euph>



Horn 2本という少なさで、とうとう定期演奏会を迎えるはめになってしまった。今年入部して2ndを吹いている大川くん。2年のくせに1stを吹いているいっけんブタに見える実はブタな中台くん。とても二人は性格が似ていて兄弟のようだ。

次はEuph。これもまた2年生のくせに1stを吹いているメガネをかけたいなかもの松本くん。その子分が一年の大岩くん。これもまた病気で、どこに行くにも二人一組。早い話しが、EuphとHornは病気のなのです。

演奏中に追ってくるかもしれませんが聞いて下さい。

<TRUMPET>



まず細川、こいつは問題児中の問題児である。野中二世とも呼ばれている。欠席、遅刻は何のその、理由を聞かれりゃ黙否権を使う。「部をやめます」と言うかと思えば30万円もするバックのペットを買う。大物の器、だと私は思う。次に若葉、こいつは二年のくせに三年である私の行動を見て「病気だ」と言う。いつか殺してやる…。そして和田、彼はパートリーダーだ。北島三郎ではない。最後にMr.カトー、彼は一年生のくせにととても老けて見える。こういうヤツはとてもかわいい。四人とも高いペットを自前で持っているの、かっこいいと思う。

<TUBA, TROMBONE>



チューバ吹きで、部長でもある小林君は、大綱人である。彼の鳥がらの様な体から、あの野太い音が出ることは、世界の七不思議かも知れない。清水君は、あの図う体に似合わぬ、とてもやさしい音を出す。あだ名はリップマン。ボーンのリーダーで、指揮もふる野中君は、わけのわからぬセリフと行動が多い。彼にいつもいじめられて、体育館の陰で、こっそり涙を流しているのは藤本君、彼は生意気にも、女の子をひきつけて、街中を歩いている。最後に白鳥君。彼は、ふだんは目立たぬが、やっぱり目立たない。みんな個性のかたまりでござる。ニンニン

<PERCUTION>



麻省狂の永井文生、気分だけクリスタルの吉野大三郎、とぼけの広瀬陽一、使いっぱしりの高石誠、この4人によって構成されたパーカッションは常に悪を極め、わが部に発生する悪事はほとんどこのパートによるしわざと言っても過言ではないでしょう。ところがこの4人、ひとたびスティックを手にとると目の色が変わるという熱心さ。練習中、頭の中には難しい曲をいかにうまくきりぬけるかという事しかなく、これまでうまくやってきました。と言っても結局はいつもさわがしく、まったくうる星やつらであるという言葉におちつくと思います。

ステージ

PERCUSSION

吉野大三郎(3) 永井文文生(3)
広瀬 陽一(3) 高石 誠(1)

TRUMPET

和田 嘉章(3) 細川 治(1)
若名 信行(2) 杉本 克男(OB)
加藤 誠(1) 村田 孝治(OB)

TROMBONE

野中 昭儀(3) 藤本 喜弘(2)
白鳥 伸夫(3) 小沢 宏寿(EX)

HORN

中台 昌芳(2) 大川 政徳(1)
中島津木雄(OB)

EUPHONIUM

松本 章(2)
大岩 忠義(1)

TUBA

小林 克典(3)
清水 芳明(3)
斉藤 周平(OB)

PICCOLO&FLUTE

大塚 英治(3) 山本加奈美(1)
伊藤奈美子(3) 高梨義雄(OB)

SAXOPHONE

渡辺 俊一(3) 高橋 誠(OB)
浦上 東太(2) 佐藤 義徳(OB)
星 徹(1)

OBOE

井上 光一(3)

B^bCLARINET

梶野 喜昭(3) 真藤 嘉秀(1) 木原 保治(OB)
鈴木 啓司(3) 栗原 秀裕(1) 白尾 健治(OB)
成田 清人(2) 船井 洋一(OB) 高橋誠(OB)
大橋 政彦(1) 森谷 照夫(OB)

FAGOTTO

大槻 修敬(3)

E^bCLARINET

山手 玲二(OB)

B^bBASSCLARINET

日暮 清隆(OB)

CONDUCTOR

中川 自通(OB)
野中 昭儀(3)

今年度の活動

- 4月 入学式
- 7月 全国高校野球千葉県大会開会式
自校応援 (ベスト8入り)
- 8月 全国高校総体「柔道」閉会式
高校野球閉会式
仁戸名養護学校で演奏
夏季合宿
県吹奏楽コンクール (銀賞)
- 10月 千葉工校同窓会南総支部集会にて演奏
- 11月 文化祭
- 57年1月 第25回 定期演奏会

千工吹30年の歩み

- 昭和27 故 荒川一郎先生以下12名で千葉工業吹奏楽部誕生
- 33 第1回定期演奏会千葉市教育会館にて開催
- 35 荒川先生転任
- 37 創立10周年記念 第5回定期演奏会を開催
講師として吹奏楽連盟理事 故 水島数雄先生を迎える
- 40 荒川先生の追悼演奏会を行なう
- 42 本校移転にともない津田沼より千葉市今井町に移る
- 47 水島数雄先生死去
講師として金子建志先生を迎える
- 48 ハワイ親善野球大会に応援演奏
- 49 科学技術学園高等学校卒業式
東京虎の門ホール
- 52 中川自通先生を講師に迎える

